

特集 ことばを使う力を育てる

「音読」の先にあるもの

統合的な言語活動でことばの力を育てよう

山本 崇雄 (東京都立両国高等学校附属中学校)



はじめに

中学校の教科書は、英語の4技能が分け隔てなく盛り込まれており、先生によって扱いが大きく異なる。そのため、教科書をどのように扱い、どのような活動をするかは、私たち英語教師の大きな悩みだ。その中で、多くの先生方が大切にしている活動に「音読」がある。「第1回中学英語に関する基本調査」(ベネッセ教育開発センター、2009)では、実に87.8%の先生方が授業中に「よく行う」活動として挙げている。「音読」はスポーツにたとえると、野球の素振りや、筋力トレーニングに似ている。「音読ができなくて、英語が得意になった生徒には会ったことがない」という言葉も聞く。では、「音読」の先には何があるのか。日々の練習の先に試合があるように、「音読」の先にあるものを常に意識しなければ、単なる基礎トレーニングで終わってしまう。前述の調査ではスピーチ・プレゼンテーションのような実践的な活動を「よく行う」という先生は5.1%にまで下がる。24NCでは、「音読」の先にある実践的で統合的な言語活動をMini-projectとして配置している。ここでは、2年生のLESSON 5 “My Dream”を取り上げ、「音読」の先にある活動を紹介したい。

音読の先にプレゼンテーションを

私は「音読」の活動の先に、Oral Presentationと呼ばれる教科書本文のリプロダクションの活動を置いている。具体的な指導法を紹介する。

(1) GETでのOral Presentation

GETの内容は比較的量が少ないので、基礎的なリプロダクションの練習をすることができる。右上はBOOK 2, LESSON 5, GET Part 2の絵である。



エマが職業体験の感想を述べているシーンだ。これを生徒は以下のようにプレゼンテーションする。

“Look at this picture. This is Emma. She visited the Sato family to experience farming in Japan ...”

このように、教科書の1人称で書かれたモノログを3人称で言い換えながら内容を第三者に伝えていく。最後には、“I think Emma had a great time there. I want to learn about rice farming too.”などと自分の感想を付け加えさせると、自己表現につながる。

(2) USE ReadでのOral Presentation

USE Readは主に「読むこと」を意識して作られたページなので、プレゼンテーションまで発展させるには難しいページもある。BOOK 2, LESSON 5のようなMini-projectがあるLESSONでは、Oral Presentationが教科書本文とMini-projectをスムーズにつなげてくれる。USE ReadのOral Presentationは、教科書本文の量が多いので、内容を要約して発表させるとよい。LESSON 5のUSE Readでは、久美が将来の夢についてスピーチしている。本文では、久美が「花火師」になりたい理由をFirst, ...Second, ...とナンバリングしながら述べている。右上のような表にまとめながら読

主張	Kumi wants to be a fireworks artist.	
↑	理由 1	(First,) she thinks Making fireworks is worth doing
↓	理由 2	(Second,) she likes Japanese traditions.
結論	(In conclusion,) she wants to give pleasure to everyone. So, she wants to be a fireworks artist.	

んでいくとよい。この表を元にすれば、Post-Reading のタスク「久美のスピーチを要約する英文を 30 語程度で書いてみよう」のような要約の基礎トレーニングになる。

GET, USE Read, そして Mini-project へ

Mini-project はいよいよ自己表現の実践の場である。GET, USE Read での「音読」から「プレゼンテーション」の活動が基礎となり、改めて、時間をかけて準備する必要はない。Mini-project の 1 Listen → 2 Speak → 3 Read → 4 Speak の順でステップを踏んで、無理なく自己表現につなげることができる。

1 Listen では、USE Read で要点をまとめたように、メモをしながら聞かせるとよい。First, ... Second, ... といったナンバリングに注目させるとメモが取りやすい。

2 Speak の活動では、USE Read の Oral Presentation の経験が生かされるのでスムーズに

つなげられる。理由を書くのに時間がかかる生徒には、USE Read やこのページの 1 Listen のタスクを参考にさせるとよい。

3 Read では、Task をこなしながら、次の 4 Speak につながる表現を自然に増やせるので、次に「話す」ことを意識させて読ませることが大切だ。


4 Speak では、これまでに導入した表現を IDEA BOX で再確認し、話す内容を考えさせるとよい。将来つきたい職業が決まっていない生徒には、高校で勉強したいこと、趣味でやってみたいことなど、ヒントを与えることも大切だ。

このように、24NC では、教科書本文から実践的で統合的な言語活動に無理なく指導していけるしかけがしてあるので、「音読」の次にある活動をイメージしやすい。毎授業での「音読」を素地に、Oral Presentation で表現力の基礎を育て、Mini-project で実践的で統合的な言語活動につなげていく。この流れに沿えば、英語の 4 技能を総合的に伸ばし、自己表現活動に自然につなげることができる。


USE Mini-project
LESSON 5

スピーチ「私の夢」 ※得意の夢や、やりたいことについてスピーチをしよう。

1 **Listen** (My Dream) というテーマでスピーチコンテストが行われ、由美と寛が入賞しました。スピーチの録音を聞いて、彼らの夢をメモしよう。また、その理由を下から選んで録べよう。



I want to be _____



I want to be _____

I want to meet people from other countries.

It's a world sport.

I like languages.

Tennis is my favorite sport.

(country: country(国)の略称)

2 **Speak** 自分のスピーチの準備をしよう。
(1) 下のメモに英語を書き込んで、スピーチのおおまかな内容を決めよう。

自分の夢は？
I want to _____
理由は？(2つ以上)
First, _____ Second, _____
最後にもう一度夢を言おう
So, I want to _____

② 上のメモをもとにペアでやりとりし、おたがいの夢とその理由について話してみよう。

Ⓐ: What do you want to be in the future?
B: I want to be a musician.
A: Why?
B: First, I like music. Second, I want to be famous. So, I want to be a musician.

3 **Read** 下の由美のスピーチ原稿を、構成に注意しながら読んでみよう。次に、英語の原稿の流れをよくするために、下の a-e の文をどこに入れるとよまくなるかを考え、() に記号を書き入れよう。

イントロ
() I'm going to tell you about my dream.
I want to be a swimming coach.
理由 1
() First, swimming is my favorite sport. ()
理由 2
Second, swimming is for everyone. ()
結論
So, I want to be a swimming coach. ()
あいさつ
Thank you.

a. I have two reasons.
b. For this dream, I will work hard.
c. Do you have a dream?
d. I swim every day. It's very hard, but it's a lot of fun.
e. I want to teach swimming to many people from children to adults.

(hard: いらいやうにむづかしい、difficult: 難しいなどの同義語、adult: 大人)

4 **Speak** (My Dream) というテーマでのスピーチをしよう。
(1) 左ページのメモで作ったメモに、3を参考に情報をつけ加え、スピーチ原稿を作ろう。
② 原稿の準備ができたら、友達の前で英語でスピーチをしよう。

IDEA BOX

go to ~ to learn ... ~を学ぶために～へ行く
I have ... reasons. ...個の理由があります。
First, ... 第一に、... Second, ... 第二に、... Third, ... 第三に、...
Finally, ... 最後に、... In conclusion, ... 結論として、... So, ... それで、...

③ クラスの中からスピーチコンテストの出場者を選んだら、あなたはどれのスピーチを推薦しますか。あなたが推薦する人のスピーチの内容と、推薦する理由を書ってみよう。

SPECIAL
NEGISHI MASASHI
HIDAI SHIGEKI
IMAI HIROYUKI
TANAKA TAKEO
KUDO YOJI
YAMAMOTO TAKAO
SUGIMOTO KAORU